

経営と健康

日本と台湾の架け橋「李登輝物語」

第二回

講談師 一龍斎貞花

台湾と中国の摩擦は、日本にとつて影

響があるだけに心配です。中国は台湾併合一国二制度と言っていますが、香港の状態を見れば信じられません。講談「李登輝物語」口演には、講談ファンだけでなく多くのお客様が来席して下さいました。

特務機関の警備総司令部に連行された李登輝は、毎日朝早くから夜遅くまで尋問が続き、手荒なことはされなかったものの、交友関係からアメリカ留学時代のことまで細かく調べられ、

「共産党に関わらなかつたか」と、何度も聞かれ、そのうちに取り締官の一人が、「お前みたいな男を、蔣経国以外使う者はいない」と洩らされたが、登輝自身何故蔣経国

がと、不思議な思いでした。

国民党に入党

一週間ほどで無罪放免となった李に、上司の台湾大学教授で国民党員の王作栄が、

「君が仕事をするには国民党に入ることだ。どうだ入党申請書をもってきたよ」登輝自身、国民党政策に批判的であったが、熟慮の末この勧めに従って国民党に入党。

「台湾生れの本省人が、外省人の国民党に入るのをおかしいじゃないか」
「武力で制圧した国民党入党は、間違ってるぞ」
友人・知人・家族の反対に対し、

「農政を担うにしても、党员でなければ重要会議に出席出来ない。仕事をするために入党を決めたんだ」

私は、台湾のため仕事をしたい。仕事を

1972年、首相に当る行政院長に就任した蔣介石の長男蔣経国が、李登輝を無任所大臣に任命。

これには周囲の者が驚いたが、経国は何年も前から農業振興政策を考え、アメリカで名をはせた李の登用を考え、わずか入党一年という登輝を、この男ならと入閣させました。

国民党の中でどんどん地位を築いた陳誠は、台湾省主席に任命されるや、戒厳令を布告するなど強い力を持っていたが、その陳誠が亡くなり、蔣経国が党、軍の総てを掌握、共産勢力に対抗するアメリカの後ろ盾もあり、大陸反攻

作戦を行うも敗北。

中国にも影響力を持つ歌手のテレサ・テンは、香港生れで台湾に住み民主化を求める人で、政治的にも利用されました。

中華人民共和国成立

毛沢東率いる中国共産党政権が、1921年10月1日中華人民共和国を成立させ、フランスが外交関係を結ぶなど力を得て、

中華民国台湾が維持してきた「中国の代表権と、安保管理事事国の地位を奪われ」日米が残留を画策するも欧州の共産圏23ヶ国が共同提案した、台湾追放決議が賛成多数で成立。
地位を失った台湾は国連から撤退。今も国連に復帰できないままです。

蔣経国は、国際的孤立の強まる中で国民党が生き残るためには、李登輝のような高い教育を受けた台湾生れのエリートを登用しなければいけないと考えていた。

田中角栄首相、中国と国交正常化

1972年、アメリカニクソン大統領が中国を訪問、米中和解へ転換。

アメリカの頭越しの行動に驚いた日本田中角栄首相が9月中国と国交正常化したため、台湾は日本と断交、激しい反日運動が起きたのでした。

アメリカが、中国と国交樹立は後の1979年1月で、日本はあわててアメリカに先んじて中国と国交正常化したのです。アメリカは台湾と断交したものの、3カ月後の4月右派の巻き返しで「台湾関係法」を制定し、台湾援助を続けます。

49歳という若さで入閣した登輝に、外省人の嫉妬が渦巻いていた。

経国は、そうした中でも李を登用し、あらゆる会議、各地の視察にも同行させ、学者である登輝に政治の帝王学を学

ばせていきます。

登輝を登用した一つには、野心家でないことも経国が抜擢したのです。

1975年4月、絶大な権力を誇った蒋介石が87歳で亡くなるや、副総統の嚴家淦が総統に昇格、蒋介石の残りの3年間の任務が終わるや、78年行政院長の蔣経国が第6代総統に就任。

弟の緯国は、蒋介石の養子で母親は日本人でした。

実の子でない経国と対立していた、蒋介石の後妻宋美齡が総統を狙ったが、蒋介石夫人として傍若無人の振る舞いをした宋美齡がトップになったら、独裁政治になるだろうと反発した長老も多く、宋美齡は敗北し台湾を離れアメリカで亡くなりました。

姉の宋慶齡は、孫文の妻で中国を愛し人民解放に尽力し良心の持ち主。中国の良心ともいわれ妹の宋美齡とは大違い。

孫文、蒋介石が宋姉妹と結婚したのは、姉妹の親が中国屈指の財閥で、その支援を得るために結婚したともいわれています。

この孫文に、

「君は兵を挙げたまえ、我は財を上げて支援する」

と、日本の梅屋庄吉が、現代に換算すれば1兆円に及ぶ資金を提供。

日本に亡命した孫文を助け革命に成功させました。宋慶齡との結婚についても、中国で財を成した庄吉が多大の支援をしたといわれます。

1978年5月、かくして名実ともに台湾のトップとなった蔣経国は、李登輝を重要ポストである台北市長に任命。

登輝は、兼務していた台湾大学教授を辞任し、政治家として進む覚悟を決めます。台北市長に就任した李は、台北副都心計画を発表。

「郭さん、台湾の近代的都市づくりに協力してくれませんか」

「わかりました。喜んでやりますよ」
同郷の友人で、日本に帰化しコーディネーターとして霞が関ビルや、新宿副都心を完成させた郭茂林、以前にもこの稿で紹介しました。

日本最初の高層ビル霞が関ビル建設の映画を観ましたが、高さ147メートル

ルのところを鳶の人が命綱なしでヒョイヒョイ足場を渡っていくんです。ただスゴイと思うばかりですが、今ならそんな高い所命綱なしとは何事だと、違法になつてしまいます。

郭茂林は、
「登輝さん、台湾駅裏の日本時代の小学校校舎を使用している台北市役所を、東に移して副都心の中心とし、西の総統府とあわせ、台北の東西の軸を作つたらどうです」

郭は、台湾初の100メートルを超える台湾電力ビル、新台北駅、その台北駅前地上51階地下7階の新光三越ビルを設計。台湾随一の行政・経済・文化・商業の都市が完成。

日本に帰化している茂林は、李の判断力と優れたリーダーシップに感服し、
「このような人格者をトップに持った台湾人は幸せだ」

ところが台北市長から、台湾省主席に任命された登輝に悲しい運命が待ち受けていたのでございます。